

野菜の需給・価格動向レポート(平成29年1月30日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	12月の価格情報			1月			1月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の2月上旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格					
		下旬	上旬		中旬					
キャベツ	72.93	104	96.86	99	92	・8,980t (130%)	愛知(62), 千葉(17)	平均価格 →	愛知産は、天候に恵まれ生育は順調で、肥大も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、1月の気温の低下により現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、生育は順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。	
	76.91	101	92.10	99	89	・3,297t (111%)	愛知(41), 兵庫(12), 大阪(10)		愛知産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。	
たまねぎ	83.77	66 (79%)	83.77	76	78	・7,333t (126%)	北海道(90)	→	北海道産は、貯蔵物からの出荷となっており、作柄が良かったことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷が引き続き平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。	
	83.77	70 (84%)	83.77	74 (88%)	79	・2,876t (111%)	北海道(70), 兵庫(28)			
ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	240.04	294	252.99	347	291	・2,400t (101%)	千葉(33), 埼玉(24), 群馬(15), 茨城(15)	→	千葉産は、最近の気温の低下の影響による葉枯れが散見され、曲がり等の品質の低下もみられることから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は太物の増加が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
	467.01	532	473.04	536	423 (89%)	・209t (109%)	徳島(30), 奈良(15), 高知(15), 香川(12)		千葉産、埼玉産、群馬産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年並みに推移する見込み。	
はくさい	40.32	81 (201%)	64.18	87	85	・5,742t (109%)	茨城(87)	→	茨城産は、実需の引きが強く前進出荷傾向だった影響や最近の気温の低下により生育が緩慢となり小玉傾向であることなどから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	55.95	98 (175%)	68.70	99	92	・2,583t (117%)	茨城(19), 愛知(19), 兵庫(15), 和歌山(15)			
ほうれんそう	385.11	469	338.43	452	430	・1,043t (122%)	群馬(29), 茨城(24), 埼玉(18)	→	群馬産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。埼玉産は、1月の気温の低下により生育が緩慢となり病害も散見されることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。	
	461.74	480	375.38	462	463	・361t (109%)	徳島(51), 福岡(26), 群馬(9)		群馬産及び茨城産の出荷がそれぞれ引き続き平年並み若しくは平年より多めと見込まれるものの、埼玉産の出荷も引き続き平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
レタス (結球)	233.85	185 (79%)	233.85	165	186	・3,393t (127%)	静岡(29), 兵庫(14), 香川(12), 長崎(12)	→	静岡産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。兵庫産は、12月からの気温高による前進出荷や1月中旬の気温低下による生育遅延により、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は遅れていた分が出荷を迎えることから、平年並みの出荷の見込み。香川産は、12月からの気温高による前進出荷により、現在平年より多めの出荷となっているものの、今後は1月中旬以降の気温低下と干ばつ気味の影響から、平年並みの出荷の見込み。長崎産は、定植時期の天候不順の影響により、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は定植時期をずらした産地の出荷が見込まれ、平年並みの出荷の見込み。 現在平年より少なめの出荷となっている兵庫産及び長崎産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	226.75	178 (79%)	226.75	162	184	・937t (115%)	兵庫(49), 徳島(22), 長崎(10)			
きゅうり	370.98	460	370.98	358	374	・2,351t (106%)	宮崎(42), 高知(20), 千葉(19)	→	宮崎産は、12月以降の好天に恵まれて気温が高めに推移し、生育は順調であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。高知産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。	
	350.33	436	350.33	351	350	・930t (102%)	宮崎(47), 高知(21), 徳島(18)		宮崎産、高知産及び千葉産の出荷が引き続き平年より多め若しくは平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。	
トマト (大玉)	349.23	446	349.23	381	372	・2,649t (107%)	熊本(44), 愛知(15), 栃木(14)	→	熊本産は、1月の気温の低下により着果が不安定であることに加え、着色が遅く生育が緩慢であることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は春作の増加が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。愛知産は、9月から10月の天候不順の影響で作柄があまり良くなく、病害も散見され、早めに植え替えを行っている生産者がみられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
	326.61	431	326.61	373	350	・1,076t (121%)	熊本(73)		熊本産が平年並み、愛知産及び栃木産の出荷がそれぞれ引き続き平年よりやや少なめ若しくは平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。	
なす	389.03	452	389.03	371	403	・684t (99%)	高知(62), 福岡(18)	→	高知産は、12月以降の気温が高めに推移し、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、草勢は弱めであるものの、天候に恵まれ生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 福岡産及び高知産において現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	397.74	443	397.74	357	399	・260t (108%)	高知(37), 熊本(29), 福岡(19)			
ピーマン	378.83	492	578.80	464 (80%)	545	・496t (92%)	宮崎(52), 高知(19), 鹿児島(18)	→	宮崎産は、1月の気温の低下の影響はあるものの、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。高知産は、草勢は弱めであるものの、天候に恵まれ生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
	371.29	451	565.30	377 (67%)	495 (88%)	・242t (80%)	宮崎(48), 高知(23), 鹿児島(14)		宮崎産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。	
だいこん	67.55	86	79.03	83	69 (87%)	・6,566t (120%)	神奈川(49), 千葉(42)	→	神奈川産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、12月は気温が高めに推移し、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いことから、現在平年より多めの出荷となっているものの、今後は作の切り替えによる端境を迎えることから、平年並みの出荷の見込み。	
	76.48	87	80.47	80	67 (83%)	・3,890t (134%)	長崎(31), 徳島(22), 鹿児島(22), 和歌山(21)		神奈川産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、平年並みに推移する見込み。	
にんじん	105.86	139	111.16	137	139	・3,898t (88%)	千葉(86)	→	千葉産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いものの、播種期の台風等による苗の流亡の影響から、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 千葉産の出荷が引き続き平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	104.49	143	109.97	119	123	・1,274t (99%)	鹿児島(41), 長崎(40), 鳥取(10)			

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び青の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が廃断するとは限らないため、あくまで参考である。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成27年実績である。  
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	12月の価格情報		1月		1月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の2月上旬までの見通し			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック平均販売価格						
いも類	さといも	220.97	287 (130%)	228.85	242 (106%)	226 (99%)	・313t (129%)	埼玉(40)、千葉(29)	→	埼玉産は、貯蔵物からの計画的な出荷となっており、作柄が良かったことから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。千葉産は、計画的出荷ではあるが、年明け後も高い需要が続き、現在平年より多めの出荷となっているものの、今後は需要も落ち着くと見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。
		217.56	294 (135%)	219.65	282 (128%)	237 (108%)	・119t (102%)	愛媛(65)、熊本(15)		
	ばれいしょ	96.99	174 (179%)	96.99	180 (186%)	180 (186%)	・3,553t (79%)	北海道(61)、長崎(29)	→	北海道産は、貯蔵物からの計画的な出荷となっており、8月末の台風による大雨の影響などで歩留まりが低下しており、肥大もあまり良くないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。長崎産は、8月から9月の定植時の天候不順により小玉傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		96.99	164 (169%)	96.99	171 (176%)	174 (179%)	・1,271t (83%)	北海道(65)、長崎(28)	→	北海道産及び長崎産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
 2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成27年実績である。  
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	12月の価格情報		1月		1月中旬の東京及び大阪市場の入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の2月上旬までの見通し			
	(参考)過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格	(参考)過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格						
洋菜類	ブロッコリー	297.74	362 (122%)	385.82	301 (78%)	425 (110%)	・706t (116%)	愛知(35)、香川(21)、埼玉(14)	→	愛知産は、気温の低下により生育が緩慢となる時期ではあるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。香川産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、11月の降雪などにより品質の低下がみられるものの、1月中旬の気温の低下により生育が遅れていた分が出荷を迎えていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。
		340.20	342 (101%)	417.58	290 (89%)	427 (102%)	・216t (112%)	徳島(35)、鳥取(13)、長崎(11)		
根菜類	ごぼう	272.73	452 (166%)	318.13	540 (170%)	440 (138%)	・237t (111%)	青森(65)、茨城(16)	→	青森産は、12月に収穫が終わり、現在貯蔵物からの出荷となっているが、8月末の台風の影響により葉の損傷や茎の折れ等が発生し、細物や短物が多く、曲がりも見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		185.34	374 (202%)	188.58	291 (154%)	290 (154%)	・212t (123%)	茨城(45)、青森(20)		
果菜類	かぶ	118.03	150 (127%)	152.86	166 (109%)	135 (88%)	・446t (117%)	千葉(86)	→	千葉産は、小玉傾向ではあるものの、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		129.00	172 (133%)	137.79	172 (125%)	126 (91%)	・117t (118%)	徳島(41)、福岡(28)、石川(16)		

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成23～27年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。1月は平成24～28年。  
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。  
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成27年実績である。

2 トピック - はくさいの需給動向について -

**東洋の代表野菜**  
 はくさいの原産地は中国北部で、はくさいの発音が「百財(多くの財)」に通じることから、中国・清王朝の皇帝も、財運をアップさせるために高価な翡翠のはくさいを作らせた。英語ではChinese cabbage(中国キャベツ)といい、国際的な統計ではキャベツに含まれる。

**日本への渡来と普及**  
 日本は江戸時代以前から渡来していたといわれているが、日本でははくさいの栽培が広まったのは、日清戦争(明治27～28年)、日露戦争(明治37～38年)の頃で、戦地の中国に行った農村出身の兵士が現地へ食べたくさいがあまりにおいしかったので、大きく結球するはくさいの種を日本に持ち帰ったのが始まりといわれている。日露戦争後の経済発展により需要が急増し、大正時代に全国に広まった比較的新しい野菜である。

当時は、仙台で盛んに栽培が行われたものの、現在の主産地は茨城県及び長野県で、全国出荷量の57.8%(平成27年)を占めている。6月から10月は長野県産、その他の時期は茨城県産を中心に出回っている(図1)。

**はくさいの輸入**  
 はくさいの輸入量は、漬物の原材料として輸入される程度であるが、平成23年に生鮮はくさいの輸入量が増加したのは、兵庫産の不作と、東日本大震災によって物流が滞ったものを漬物業者が輸入で代用したためである。また平成28年に急増したのは国産の不作で単価が急騰し、加工・業務用の需要が輸入に変わったものと考えられる(図2)。一方、冷凍はくさいは、増加が続いている。

国別にみると、平成27年の生鮮はくさいは中国が全体の8割を占め、冷凍も中国の独占状態となっている。

**はくさいの種類と採取効果**  
 はくさいは一代雑種の性質を利用して、純系同士を掛け合わせて改良を重ねられ、3品種群(野崎群(愛知県)、松島群(宮城県)、加賀群(石川県))から新しい品種が作られている。はくさいは、結球、半結球、不結球の3タイプがあり、最も多く出回っているのは結球タイプである。現在は主な栽培品種だけでも150種以上存在するが、特に結球タイプの内側が黄色の黄心系の品種が主流となっている。主産地の茨城県では、「黄栗」などが、長野県では「信州大福」が多く作付けされている。葉の色が一般的なものより濃く、栄養価も高い「オレンジ白菜」、限界まで霜を当てることで強い甘みを引き出した「霜降り白菜」、アントシアニンが豊富な「紫白菜」などカラフルなもの、サイズが手ごろで扱いやすい「ミニはくさい」など、さまざまな品種を見かける機会が増えてきた。

栽培方法が確立され、周年出荷できるようになったはくさいだが、旬は鍋料理のシーズンの冬で、11月から2月が栄養価も高くおいしい季節である。需給動向をみると、作付面積は微減傾向だが、出荷量は単収の向上から微増傾向となっている(図3)。かつては家庭でつくる漬物用として大量に消費されていたはくさいだが、漬物としての購入量は減少しているものの、定番の鍋に加えて、ケセがなく、さまざまな料理で活用されることから、1人当たりの購入量は増加傾向にある(図4)。また、はくさいにはグルコシノレートという辛み成分が含まれており、肝臓の解毒作用を活性化させる「デトックス」効果もある。不要なものが排出されやすい体内環境に整えてくれる、旬のはくさいをしっかりとりたい。

図1 秋冬及び夏はくさいの生産地別出荷量(平成27年)

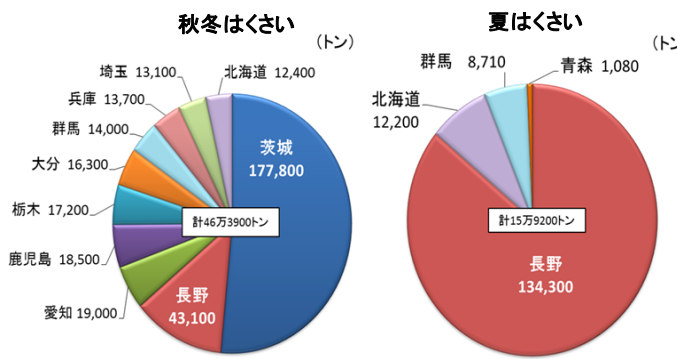


図2 生鮮はくさいの輸入の推移

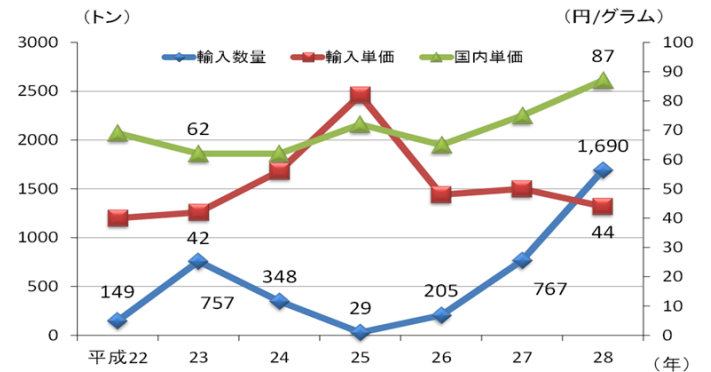


図3 はくさいの作付面積と出荷量の推移

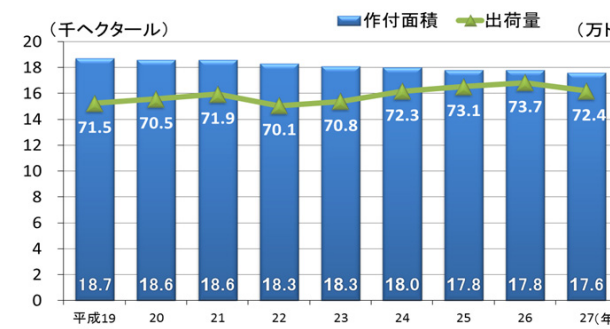
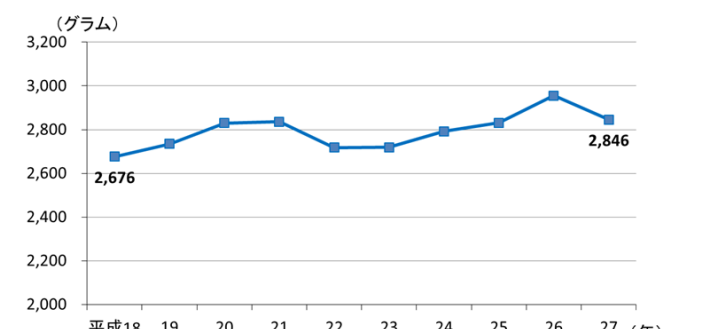


図4 はくさいの1人当たり年間購入量の推移



資料：図1・3 農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」)、図2 農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)「東京都中央卸売市場年報」、図4 農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：総務省統計局「家計調査結果表(農林漁家世帯を除く)」)

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールアドレスから登録してください。  
 ※この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\_report.htmlに掲載しています。  
 ※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関しても、当機構は一切の責任を負いません。